

令和7年度 第2回 吉田島高等学校学校運営協議会 会議概要

令和7年12月2日(水) 15:30~16:30

吉田島高等学校本館 2階 セミナールーム 021

校長挨拶

2年次の修学旅行(広島・大阪方面)を実施。平和学習・民泊・USJ等を含む3泊4日で実施。次年度は長崎予定だが物価高騰の影響で旅費上限10万円以内に収める必要があり、2泊3日へ短縮して実施予定。

文化祭は2日制(校内→一般公開)で実施し、農産物人気もあり来場者が多く、地域交流や中学生・保護者への学校の特色理解につながったと考えている。

大学・短大・専門学校・企業・地域等との連携による外部人材活用で学びの裾野が広がっており、9月の県知事訪問の際には、生徒から「吉田島の学びは全て充実している」という主旨の発言があり、本校の教育活動に対する自信につながった。

協議:令和7年度「学校評価目標(中間報告)」について

① 教育課程・学習指導(授業改善)

【広報情報グループ】

「教えて考えさせる授業(OKJ)」の推進として、4月から毎月1回の授業研究会を積み重ね、10月に2年次対象で研究授業を実施。教科や実習・座学の枠を越えて意見交換し、研究授業後には協議会も行い、今後の授業改善へつなげていく。

また、7月実施の生徒授業評価について、年次・クラス編成(1年次は農業3科混合クラスと生活科学科単独クラス)による傾向差、座学中心科目より実習科目の評価が広がる傾向がある。

【生徒活動グループ】

学校行事を生徒主体で進めるため、生徒と相談しつつ支援体制を構築。前期体育祭は熱中症対策もあり小田原アリーナへ会場を変更した。次年度も内容・場所を検討していく方針。

文化祭は、PTAの方や地域の方など様々な方の協力をいただいて無事に終えることができた。実行委員・生徒会を中心に運営し、アンケートで「よかったです」76%、「だいたいよかったです」23%(計99%)、「主体的に取り組んだ」も「よくできた」61%、「だいたいできた」34%(計95%)という満足度の高い結果となった。

【学事グループ】

教育課程改定に伴う課題整理を年間目標とし、生活科学科の「家庭基礎→家庭総合」、農業 3 科の「情報→農業と情報」、生活科学科の「情報→生活産業情報」等の変更を踏まえ、カリキュラム検証のためのアンケート準備を進めている。

② 生活指導・支援

【生活指導・支援グループ】

闇バイト等の SNS リスクを題材にした疑似体験型の講演会を実施し、受動的に聞くだけではなく「自分ごと化」できるよう講師選定も工夫した。

また、気温上昇を踏まえた制服素材の変更検討(サンプル提示・アンケート予定)を進めている。教育相談体制としては、県の「サポートドック」に加え、有料で「きらり」アンケートも導入し、拾い上げ精度を高めている。SC・SSW は週 1 回ずつ、希望者面談に加えプッシュ型面談も行い予約が埋まるほど面談が進んでいる。年次ごとの教育相談コーディネーターと情報共有しながらケース会議等で支援方針を検討している。

③ 進路指導・支援

【キャリアグループ】

外部試験は長期休業前や学期末の時間を使って実施したが、生活改善など日常に結びつきにくい点が課題。就職は学校経由で現在までの内定は 35 名。企業の求人意欲が高い一方で、採用姿勢は「基準に満たない場合は内定を出さない」企業と、「人材確保を優先して内定を出す」企業に分かれている。1・2 年次には進路ガイダンス等を通じて学習・生活の重要性を継続指導していく。

インターンシップは適性理解や意思決定に有効である一方、効果的な参加の仕方について、今後検討する必要がある。開成町議会に参加した生徒は貴重な体験をさせていただいた。

④ 地域との協働

【広報情報グループ】

今年度から学校公式 Instagram を開始し、タイムリーな情報発信ができた。一方、中学生が求める情報は時期により変化するため、必要情報を速やかに届ける工夫が課題である。

各種機関との連携については、活発に幼・小・中や地域等との連携を通じ、生徒活動を展開している。

⑤学校管理・学校運営

【管理グループ】

安心安全な学校生活のための教育環境を整備するために、開成町の防災担当者の方と、災害時の施設利用協定見直しについて協議を行った。引き続き協議を続けていく。

夏季休業中に校内安全点検を実施し、結果に基づいて、不良箇所確認と整備計画を立てている。働き方改革では長時間労働を課題としつつ、毎月 2~3 名が 80 時間超残業となる状況が残る一方、全体では減少傾向となっている。電話の外線を「8:30 以前／16:50 以降」制限したことで勤務時間外の電話対応が減り、業務集中と早帰りにつながっていると考えられる。

不祥事防止は、昨年度同様に毎月 1 回、職員会議内で研修を継続し、輪番で講師を務め、実体験も踏まえた内容で自分事として捉えることができていると感じている。

各委員より意見・質問・協議（○：委員 ●：学校）

○進路について企業側の採用意欲が高いということだが、生徒の第 1 希望に決まる割合は高いのか。

●9月 16 日時点での約 8 割が内定をもらっている。

報告事項：各年次の生徒の様子

1 年次は、文化祭に前向きで雰囲気は概ね良好だが、一部課題を抱えている生徒もいる。

2 年次は、修学旅行の民泊において、受入側から生徒に対し、しっかりしていると称賛があった。

3 年次は、就職活動が落ちつき、卒業に向けて概ね落ち着いた状況で、試験や卒業試験に向けてもう一踏ん張りという状況。

その他

【校長】

現状の課題として、教員不足（英語の代替教員が見つからない）、および生徒数の少なさ（専門高校はクラス増減が難しい、志願変更で志望校を変える可能性等）への危機感がある。

【委員】

進路については、中学生本人の希望と保護者の意向が合わないケースや、地域で定員割れが多いことによる意識の変化（「どうせ入れる」と捉えられがち）がある。